

修 士 論 文 要 旨

（ 特 定 課 題 ）

看護学専攻	母性看護学分野	学籍番号 220612
		氏 名 柳生 侑希
論文題目	母性看護専門看護師による倫理的葛藤を抱える助産師への実践活動 —周産期のハイリスク母子援助における役割発揮に焦点をあてて—	
キーワード	母性看護専門看護師、助産師、倫理的葛藤、ハイリスク母子援助、役割発揮	
<p>【研究背景】周産期のハイリスク母子援助に関わる助産師は、母子双方の生命と向き合うなかで深刻な倫理的葛藤を抱えている。母性看護領域の複雑で解決困難な課題にアプローチする母性看護専門看護師の役割が問われているが、母性看護専門看護師が倫理的葛藤を抱える助産師をどのように捉えて実践活動をしているかは明らかになっていない。周産期のハイリスク母子援助における役割発揮に焦点をあて、母性看護専門看護師の語りから、その思考や判断、実践活動の様相を可視化する意義は大きい。</p> <p>【研究目的】周産期のハイリスク母子援助における母性看護専門看護師の役割発揮に焦点をあて、倫理的葛藤を抱える助産師への母性看護専門看護師の実践活動の様相を明らかにする。</p> <p>【研究方法】先行研究がほとんど存在しない事象を扱うため質的記述的研究デザインとした。研究協力者は医療機関で周産期の母子を対象として助産師と協働する機会がある認定更新 1 回以上の母性看護専門看護師 7 名である。2021 年 7 月から 10 月に半構造化面接法によりデータを収集した。逐語録の意味内容を整理しコード化後、コードの共通性と相違性を比較しながらカテゴリー化した。分析にあたり母性看護学、質的研究を専門とする教員のスーパーバイズを得た。なお、三重県立看護大学研究倫理審査会を受審し承認を得て実施した（通知番号 210303）。</p> <p>【結果】母性看護専門看護師は、倫理的課題に直面している助産師を『母子のアドボケイトに徹しきれない助産師』と捉え、倫理的課題へのアプローチに向け『倫理調整上の戦略を練る』ことを試みていた。また、組織を見据え『組織力を能動的に賦活する』ことと並行して、助産師をはじめとする当事者の『倫理的感性の涵養に向け多面的にアプローチする』ことに取り組んでいた。さらにこうした実践をとおして『倫理調整を積み重ねることに意味がある』と認識していた。</p> <p>【考察】母性看護専門看護師は、価値観の対立や医療方針により、母子のアドボケイトに徹しきれない助産師のくすぶる思いや倫理的感応力を浮き彫りにするなど倫理調整上の戦略を練っており、倫理調整に関する組織の分析による倫理的課題の見極めをしていた。また、母性看護専門看護師としての強みを活かしながら能動的に組織に働きかけ組織力を賦活しつつ、助産師や当事者の思考の転換やエンパワメントといった倫理的感性の涵養に向けた多面的なアプローチを展開しており、倫理的課題の解決に向けた包括的な取り組みをしていた。母性看護専門看護師は倫理調整を積み重ねることに意味があると認識しており、倫理調整はまだまだ端緒であると実感しつつも、役割発揮に向けた将来への展望をもって実践活動に取り組んでいた。</p> <p>【結論】母性看護専門看護師は倫理調整に関する組織の分析による倫理的課題の見極めと、倫理的課題の解決に向けた包括的な取り組みを行い、倫理調整の端緒と展望をもって実践活動をしていた。</p>		